

けんしゅう だより ①



中央中等教育学校 授業研究・FEWC 推進部
新しい学びのための授業改善研修 第1号 令和7年8月 日発行

*授業別グループ協議および、授業後の生徒の振り返り、津久井貴之先生（群馬大学講師）のご講義の内容を元に作成しています。

*スペースの都合上、ご意見を合わせたり、編集したりさせていただいた部分がございます。

校内研修テーマ：『学習の個性化』を伴った探究的で創造的な学習の導入

前原一輝先生　日本史　5学年

• LESSON OUTLINE •

<単元名「律令国家の形成」>

律令国家の形成について、単元を貫く問い合わせるための視点を興味関心に基づいて生徒自身が定め、探究を進める。探究のプロセスの中で他者の多様な視点を取り入れ学習を調整しながら、個性を生かした創造的な表現活動を行う。

I. 「学習の個性化」を伴った探究的で創造的な学習の導入について

(公開授業後の参加者アンケートおよび授業検討会から)

- ・ それぞれの問を持って生徒が学習するということは大切だと再認識した。そしてその学習の後の深化については工夫が必要であると考える。
- ・ どうしても知識のインプットに拘ってしまう自分を見つけるが、生徒の能力を信じて預けることの必要性を再確認しました。
- ・ 答えが1つとは限らない場面で、生徒から様々な問い合わせてきたことがとても興味深かったです。
- ・ 生徒が当事者意識になって歴史の「因果関係」を探ろうとする姿に感動しました。
- ・ この時代ならではの視点が必要。「天皇中心の国造りをする」という時代ならではの視点や関わりを考えさせる資料を提示することの重要性を感じた。
- ・ 発想や思考の自由さと知識の正確さのバランスをどうとるかが課題である。
- ・ どのような力を身に付けさせたいか、ねらいを明確にした授業が大切であると感じた。授業展開の中で学びが深まるような活動を積極的に取り入れていきたい。
- ・ 単元をつらぬく問い合わせの設定の際、問い合わせの精度を高める支援が必要であると改めて認識しました。

◇学習の個性化について

- ・「学習の個性化」は自由度が高いということではなく、同じ目標に収斂していくものであるという点が新鮮であり、新たな学びでした。
- ・学習の個性化について具体的なイメージを持ってていなかったため、とても参考になった。学習内容を選択できることに加えて、発表方法も選択できるというのは大きな気づきになった。
- ・ねらいからずれることを恐れてたくさん情報与えてしまうと、個性化がなくなってしまう。偏った情報になってしまったり、教師の好きそうな答えにたどり着いたりしてしまうことを知った。

- ・自分が提案できるテーマで提案し、5人の班もあれば1人の班もあっていい。意見の数だけ班編成をすると能够ると、「ゆさぶられる」「多角的な視点」につながる。
- ・班での発表となつたことで多様性や個性が薄くなってしまった。ブレインストーミングでは「文化」や「外交と防衛」などに注目した問い合わせていたので、そうしたマイノリティな部分でも班が作れたら面白いと思った。
- ・ほとんどの発表が税制改革に寄つてしまつたことから、「学びの個性化」と割り切つて、グループ発表をせず、個人の意見をスプレッドシート等でまとめる方法も考えられる。

◇省察について

- ・省察は生徒にさせているが、自分自身でも省察していかなければならぬと感じた。本当にこの活動で生徒の力がつくのか、どういうゴールを目指しているのか自分に問い合わせたい。
- ・生徒が役人として政策立案・提案を行うことで、自分事化して主体的に学習に取り組むことができた。こうした経験が現代の政策にも関心を持つことにつながり、生徒の進路実現を意識したものになっていると感じた。

2. 授業後の生徒振り返りから

◇制度や政策への理解の深化

- ・律令国家の成立や維持には多くの困難があることがわかつた。中央集権国家を作ることの難しさや、外交交渉の課題に驚いた。
- ・識字率の低さから、法律を全民衆に伝えることが非常に難しかつたことを理解できた。
- ・法治国家の実現は、権力者が望めば簡単にできるわけではなく、多くの苦労や工夫が必要であったことを知つた。
- ・律令制度の税制は租庸調だけでなく、公出拳や義倉、兵役などもあり、農民が多方面で縛られていたことを理解した。
- ・それぞれの制度が政府にとってどのような意味を持ち、緩めたり廃止した場合の影響を考える必要性に気づいた。
- ・貴族と農民の負担のバランスをとることは一朝一夕で解決できるものではないと感じた。
- ・実際に昔の時代にも不正が存在しており、人間は今も昔も変わらないと感じた。

◇多角的な視点の重要性

- ・貴族・農民・役人など立場ごとに考えると利益が異なり、両者を取り持つ政策を考えることは難しいと実感した。
- ・税や政策をそれぞれの立場から考えることで、定期考查や受験にも役立つ学びになった。
- ・発表準備では役人視点に偏つてしまい、農民や貴族の視点が欠けていたことに気づいた。
- ・当時の身分制による苦しさも一律ではなく差があり、その理解によって改善の可能性も見えてきた。
- ・「天皇が質素に暮らすことで貴族の贅沢を抑える」という視点など、自分が考えなかつた意見を聞いて驚いた。
- ・天皇や貴族の華美な生活が必ずしも必要ではなく、農民への負担を減らす発想に納得した。

◇他班の発表やアイデアからの学び

- ・他の班の「日本版科挙」のアイデアは現実味があり感動した。
- ・「テストを行つて識字率を上げ、農業も発展させる」というアイデアも良いと感じた。
- ・五人組制度を税制に応用する班があつたが、結託の可能性など課題にも気づいた。
- ・他班は自分たちと違う視点や政策を提示しており、それぞれの長所・短所を比較するのが面白かった。
- ・現実的な意見と斬新な意見の両方に意味があると感じた。

◇学習・探究を通じた気づき

- ・自分たちの案には穴が多く、貴族の反発への対応などを十分に考えられなかつた。
- ・同じ問い合わせで取り組んでいるのに、班ごとに異なる答えや発想が出てくるのが面白かった。
- ・自分たちでゼロから資料や語句を調べることで、普段の授業では理解できなかつた内容を自分なりに解釈・理解できた。

「自分の興味・関心あるいは自分の課題だと感じていることを中心に学習の視点や学習方法を選択して学びを深めることができた」という質問に対し、「よくできた」という回答が9割以上。その理由については以下に記載。

- ・グラフや本を用いて情報を整理して、自分の欲しい情報をまとめて抽出できたから。
- ・自分が疑問に思っていた貴族と庶民の差についても調べて班の人に自分なりにまとめて伝えることができた。
- ・貴族と農民のそれぞれの考えを尊重するのは難しいと諦めてしまうことがよくある。しかし、一つ一つ考えていくことで、丁寧に考えていくことが大事だと感じた。
- ・特定の人物の立場に立って物事を考えるという新たな視点で学習を進めることができたから。また、どちらかが非常に有利・不利となることがないようにちょうどいいところを考えることができ、自分の成長にもつながったと思う。
- ・自己の中の疑問を、AIにきかず、調査することで解決できたが、疑問から新たに疑問が生じるみたいなことがなかったので、まだ浅いかもしれない。
- ・与えられた問題にただ回答するのではなく自分の興味のあることについて調べられるので、他の授業よりも積極的に参加できる。
- ・自分自身で政策を考えることで過去の政策と比較でき、より記憶に残りやすくなるので良いと思った。
- ・教科書、資料集以外にも信頼のできる情報に頼ったり、根拠を探したりすることでたくさんの情報を得ることができた。また、グループでの話し合い活動を通して意見をより深めることができた。
- ・当時の人の目線に立って考えることができたため。また、当時に実際にあった制度を使用した案を考えることができたため。
- ・発表方法で劇をしたことで特色がでて、観衆の興味を引いた。
- ・自分が謎に思うことの答えを、問い合わせ何度も立てて突き詰めることができたから。
- ・普段の授業とは異なり、自分が気になった点、腑に落ちないところを重点的にじっくりと探究できたと思う。



高橋駿先生 英語 2学年

• LESSON OUTLINE •

<単元名「Unit3 What kind of job are you interested in?」>

自分の興味がある職業について、生徒が仮想の外国人(AI)と英語でやりとりする中で新たな知見を得て、様々な職業の価値に触れていくことで新しい自分に気づけるような「学習の個性化」を図る。

I. 「学習の個性化」を伴った探究的で創造的な学習の導入について

(公開授業後の参加者アンケートおよび授業検討会から)

◇AIの使用について

- ・「学習の個性化」には「AIの活用」は非常に有効な手段だと感じた。
- ・生徒のレベルに応じた学習を自ら効率よく進めることができると感じた。ただし、AIの回答の精度については疑問もあり、そこに指導者がいかに介入・支援するかが重要だと感じた。
- ・「新たな定理の発見、それを利用した問題解決や応用例」をICT技術・AIを用いて知るためのツールとして導入していくことができると感じた。
- ・AIを使うことで効率が良くなるので、AIと人間の分担を正しく見極めて授業に生かしたい。
- ・AIアシスタントを活用することで、生徒一人ひとりの興味や理解度に合わせて提示する英語の例文を調整できるという新たな気づきがあった。
- ・ICT機器の有効な活用方法を知り、その習得に積極的に取り組んでいく必要性を感じた。
- ・友人との、あるいは友人からの学びと、AIからの学びの比較検討をしてほしい。

◇教員の視点から

- ・教師の役割について考える機会になった。
- ・生徒が学べたこと・気づいたことを共有する方法を取り入れたいと思った。
- ・生徒が主体的に活動している時間が長く、課題に向き合う姿が見られ、とても勉強になった。AIの効果的な使用とそれに伴う教員の役割を比べながら参観できた。
- ・授業のSmall Talkで、段階的に活動の精度が上がっていく様子が見られた。小学校でもSmall Talkをする際に工夫して取り入れたいと思った。

◇生徒の視点から

- ・生徒が自身の振り返りを蓄積・可視化できるのは良いと感じた。
- 生徒のコミュニケーション能力に対するconfidenceが上がると感じた。

2. 授業後の生徒振り返りから

◇言語面

自分の知らない単語が出たらまずは文脈などからどういう意味かある程度分析。さらに辞書などで調べていく。女性の薬剤師はwomen'sではなくfemaleをつかうことがわかった。「私を助けてくれた」はmeの前にtoは必要ない。

When I nervous, my voice is very small. ⇒ When I nervous, my voice become very quiet.

So everyone can't hear my voice clearly. ⇒ So no one can hear my voice clearly.

私が間違った文法をサイモンに送ったら、それを正しい文法に直してくれた。

また、「勉強が必要なのはわかっているけど、勉強が苦手」と言ったら、「勉強をもっと面白くする方法を見つけることが大切」と教えてくれた。

職業の単語の前にはaやanなどをつける。何をすればいい?という文ではshouldを使うと自然な感じ

◇内容面

- ・自分の夢を実現するための要素がほとんど抜けており、具体的に、解決方法とも合わせて知るために、その質問をした背景なども考えたり、質問に入れたりして、より深いところまで掘り下げられるようにしたい。
- ・アイドルは、大変な仕事だけど支えてくれるマネージャーや応援してくれるファンのお陰で疲れていても頑張ることができるらしい。どんなに大変でもファンのために日々努力する姿に感動した。辞めたい!と思ってもファンのことを思うと頑張れるそう。私の夢はアイドルじゃないけど、つながる部分があるように感じました。
- ・自分には医者になるために抜いている要素がたくさんある。しかし、ほとんどの医者は、それを段々と長い時間かけ

て埋めていったのである。➤ 自分にもまだ時間はある。今からしっかりと努力を続けていきたい。自分を見つめなおして、足りないものがわかった!職業を行っていれば、何でも辛いことはある。➤ それを乗り越えてこそ本物のエキスパートだ!

・I talk with Ms.Ana. She is IT programmer.

楽しみとしてやらなければいけないこともこなしていくことが大切。絶対に諦めないことが大切で自分の部活にも仕事や勉強にも当てはめることができた。大変になったら一度原点に戻って考えることが大切だと彼女は言っていた。自分の好奇心から生まれる「やりたいが大切」。自分がやりたいことってなんだろうと考えるようになった。

「指導の個別化・学習の個性化」に関して、自身の授業で感じている課題について

- ・問題の解き方を様々に考えさせているが、まとめや、学習の深化について悩んでいる。
- ・生徒自身に自分の今の力を客観的に把握させる手立てと時間を見つけるのに苦心しています。
- ・個性化を図った際に、生徒に課題を決めさせるとハードルを下げてしまうのではないかという不安。
- ・生徒の中での力量の差を埋めながら、個性化の授業を実践すること。進度に差ができてしまう。
- ・ゴールを明確にはしている中で、プロセスの中で支援ができないことが多いので勉強していきたい。
- ・自分が担当している教科のどのような場面で指導の個別化、学習の個性化を実現できるのか。また、真に生徒の力になる効果的な方法であるのかよく考えたい。
- ・すべてに目が行き届かない、全員の状況を把握したいがなかなか難しい。
- ・個別化の学習がこちらの見据えたゴールにきちんと向かっているかという点。
- ・指導の個別化に関しては授業を進めることが優先てしまい、適切な支援ができていない。生徒がどこでつまづいているかを把握し、指導方法を工夫していきたい。
- ・ICT、AI 活用についての自身の知識
- ・理系教科は一定レベルに達するまでは一斉の授業が効率的かつ必要で、なかなか個別化を行う時間が少ない。
- ・調べるときなど、学習の個性化により到達がピンキリになってしまう。収束されるイメージが沸かない。
- ・指導の個別化について授業をデザリングする際に一斉授業ではない方法があるのか知りたい。
- ・学習の個性化と協働的な教育活動を両立しようと頑張っているつもりですが、同じ目標に向かってというところはおおまかで抽象的になってしまいます。
- ・歴史の場合、思想の偏りが出る可能性があるので、そこが大きな注意点だと思います。
- ・生徒の興味関心に応じた学習の進め方はできても、大人数の場合は十分な支援ができない、また評価も難しいです。やりっぱなしになる危険性が高いと日々感じています。
- ・数学における AI の親和性…使いたいが、よいアプリはあるのか?
- ・それぞれのレベルに応じた課題を提供しているが、その課題を通して、新たな問い合わせられる機会が少ないように感じる。ゴールに到達するための学びの複線化がデザインできるように、準備を進めていきたい。
- ・単元や教科のねらいに向け、指導の個別化・学習の個性化に取り組む中で、個々の選択がこちらの考えるものとは違い、うまくこちらの考えに導けていないことがあり、そこに課題を感じる。
- ・生徒によって英語のレベルが大きく異なるため、全員が満足できるような課題設定やサポートが難しいと感じています。AI アシスタントの活用で、個別最適化された学習資料を準備する時間を短縮し、生徒への個別指導に時間を充てたいです。
- ・集団の学びの場である学校での「個別化・個性化」の考え方が難しいと感じる。授業でねらう目標と学習の個性化をどう両立していくのか。

津久井先生 講義より

「指導の個別化」におけるポイント

- ・必要な生徒への段階的な支援とともに、fast learner へ発展的な学習を用意
- ・ICT の活用による実態把握の容易さ→指導の変化（軽重）や教材の柔軟な変更、学習の個性化をもたらす
- ・「単元を構想する」発想への転換 「バックワードデザイン」（Wiggins & McTighe, 1998）
- ・学習者の実態からゴールを設定・ゴールの達成状況を把握する材料を集めための活動や評価場面を考える

「学習の個性化」におけるポイント

- ・学習の複線化とツールの複線化・生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する
- ・ペン、キーボード、紙、タブレットなど生徒自身が学習が最適となるよう手段を調整する
- ・そのクラスを担当している教師でなければできない指導や支援。目的、場面、状況に関するフィードバックができるのは AI にない教師のアイデンティティの一つ。
- ・省察：失敗したら「なぜそうしたのか／しなかったのか」「もしやらなかったらやっていたらどうなっていたか」「次はこうしてみよう」自分の経験について振り返り、そこから気づきや学びを得て、次にもっとよく行動できるように。

講義スライド（抜粋）

探究、個別最適・協働的な学び、agency、well-being...を意識しそうな授業のピットフォール（落とし穴）2つ

① 教科の指導目標やねらいがどこに行ってしまっている。

ゴールがあるから、学習の複線化・自由進度が成立する。
「その授業、『総合的な学習（探究）の時間』と何が違いますか？」

よい授業とは
【指導・支援・学習がねらいに向かっている授業】
【生徒に変容が起きる授業】
Focus: ねらいは明確ですか (4つの-ables)
Readiness: 足場かけと足場外しはできていますか
Challenging: 生徒がやってみようとする学習ですか

個別最適・協働的な学び、agency、well-being...を意識しそうな授業のピットフォール（落とし穴）2つ

② 授業中の学んでいる「感じ」の姿に教師が満足してしまう。

生徒が楽しそうに何やら話している。個人のペースで作業をしている
「その教科（科目）の専門性をもつその先生がそこにいる意味は？」

「反省」と「省察」(リフレクション)の違いは？

先生が生徒に「振り返り」をやたらに書かせる授業が多いが、その振り返り、振り返りになっていますか？

「反省」vs.「省察」

観点	反省 (hansei)	省察 (reflection)
焦点	結果・ミス・行動の良し悪し	背後にある信念・思考・感情・価値観
目的	改善点の把握	自己理解・内省・学びの深化
タイミング	主に授業後	授業中 (in action) や直後 (on action) も含む
深さ	表面的・手続き的な振り返り	自己の専門性を問い合わせる 内省的プロセス
例	「説明が長すぎた」	「なぜ私はたくさん話してしまったのか？」→「生徒の沈黙が不安だったから」→「私の指導観は？」

「観」が付くものは簡単に変わません（価値観、人生観、指導観、生徒観...）。また、反省して改善されるなら、生徒も教師もこれまでたくさん反省してきたはずです。まずは、教師自身が3つの問い（前スライド）で省察を取り入れましょう。

まとめ（これからの教師に特に求められる役割）

① mediator の意識（「支援」・「介入」を行う役割）

- ・中間指導で活動のゴールと子供たちの現在地の間をつなぐ
- ・ツールと子供たちをつなぐ
- ・教科書と「単元」、教科書と生徒の世界をつなぐ

② mentor の意識（「教科学習」の先輩としての役割）

- ・教科学習の専門知識や経験を共有する
- ・個人の成長を促し、将来のキャリアにも影響を及ぼす

③ coordinator, facilitator の意識（自律的に役割を変えられる存在）

- ・その場+事前の実態を踏まえた学習や活動、指導手順の調整ができる
- ・子供たち合ったモデルを提示できる